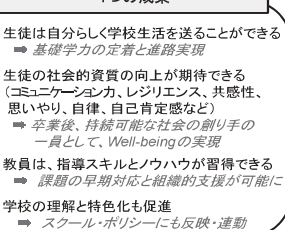




最後に、本校のスクール・ポリシーは生徒が考えてくれました。その中のアドミッション・ポリシーに示した、「自分を変えるきっかけを見つけない生徒」（定時制）「自由な時間を使って自分のやりたいことに挑戦したい生徒」（通信制）、本校で学んでみてはいかがでしょうか。お待ちしております。



① 生徒一人一人の援助ニーズを的確に把握した丁寧な指導・支援及び計画的・系統的・段階的な進路指導（キャリア教育）を進める。

② 課題の未然防止や早期発見・対応を含めた「個別支援教育」を充実させる。

- ・本校性にふさわしいエンカレッジプログラム（HEP）を開発し有効な支援につなげる。
- ・学校も一定の福祉的役割を担う状況にあるため、本校教員の資質向上と関係機関からの支援や連携を強化する。
- ・個別支援教育コーディネーターの役割を明確化し、校内支援体制を整備する。

③ ①②をとおして、生徒一人一人の進路実現とWell-beingを実現する。

※ 備考欄に特段の記載がないプログラムについては、ワークショップ形式での実施。(以下同じ)
※ 今年度は、生徒の実態等を踏まえ、4月を新たに「仲間づくりとキャリア教育」月間として集中的にプログラムを設けたため、4月の実施が多くなっている。(以下同じ)

No	実施月	プログラム	内容等	備考
1	4月	進路講話(就職支援教員)	キャリア育成・発達について	2・3・4年 生 講話
2	4月	進路指導(学芸次第担当等)	進路活動の説明(進路の手引き)を活用	2年次 講話
3	4月	アンダーネジメント	怒りのコントロール方法について知る	2年次
4	4月	ペアレント・ビュワーク	ペアをのつてインシデントを行い、ク ラスメイトへの理解を深める	2年次
5	4月	感じ方って人それぞれ	「怒り」「恥」等の文面から自分がどう感 じかたかを共有しあう	2年次
6	4月	進路講話(進路指導員)	「自分らしい人生」に向って	3年次 講話
7	4月	進路対策学習会	進路実現に向け、一人一人学習計画を 立てて取り組む。 夢や志しを学ぶ	2年次 講話

No	実施月	プログラム	内容等	備考
1	4月	グループエンカウンター	グループ協働による仲間づくり	体験活動
2	4月	アサーショントレーニング	相手に不快な思いをさせずに自分の思いを伝える方法を学ぶ	
3	4月	スボージュレクリエーション	様々なスポーツを通じてレクリエーションを行う	体験活動
4		アンガーマネジメント	怒りのコントロール方法について知る	
5	12月	デートDV	男女間で起こる「暴力」への理解と対応	講話

No	実施月	プログラム	内容等	備考
1	5月～ 8月	支部活動(福島、白河、会津、郡山、原町、いわき)	グループ協働による仲間づくり	体験活動
2	6月 7月 9月	萌世カフェ	生徒の居場所づくり	



近年、学校とNPO等の民間団体の協働の必要性は認知されてきています。一方、その具体は各地で試みはあるにせよ未だに発展途上の段階ではないでしょうか？その試行錯誤の礎石は、校長先生が私たちに話してくれた言葉だと思います。「新しいことをやるのに失敗はありません。」生徒の個性性に合わせた取り組みを今後とも新しく作っていきたいと考えています。

萌世 定時制課程

○萌世カフェ&萌世カフェ+（プラス）○

定時制では、月に1回ずつ萌世カフェと萌世カフェ+（プラス）を実施し、生徒の居場所作りや教師ではない大人に悩みを相談できる場所作りを行っています。萌世カフェでは、カフェスタッフや友達同士でボードゲームやおしゃべりを楽しむ様子が見られています。また、萌世カフェ+（プラス）では、美味しいおにぎりやあたたかいみそ汁、カレーライス等の軽食を提供しており、毎回100人を超える生徒たちが訪れています。お昼ごはんをしっかりと食べることで、午後の学習にも集中して取り組んでいるようです。生徒たちからは、「毎日萌世カフェだったらいいのにな。」「萌世カフェのために学校に来ています。」という言葉聞くことができました。



○「チーム郡山萌世」○

月に1回の個別支援教育推進委員会を中心に、教員間で日々生徒の情報共有を行い、担任や年次（学年）だけでなく学校全体で生徒の様子を見守っています。週に1回ずつSCやSSWも来校しているため、心や家庭の悩みを気軽に相談することができる環境も整っています。こおりやま子ども若者ネットワーク（以下、子わかネット）のスタッフとも情報共有をし、必要に応じて福祉や行政の支援に繋がっています。

○新入生のための「仲間づくり」月間○

新入生にとって4月は新しい環境でスタートを切るために最も大切な時期です。令和6年度は4月の時間割を組み替え、「エンカレッジプログラム」（グループエンカウンター、座席表づくり、担任教師のヒューマンライブラリー、ペアインタビューワーク、感じ方の違いの学習、クラス目標づくり）を実施し、仲間づくりを行いました。共感・共同→自己理解→自己開示→他者理解の段階を経て、学級や学年内で生活していくための安心感を獲得することができました。生徒たちに行った事後アンケートでは、「グループエンカウンターが特に楽しかった。」「担任の先生がどのような人なのかを知る良い機会となった。」「安心して学校に通えそう。」などというコメントが多く見られました。



○より良く生きていくために○

心の安定を図り、将来より良く生きていくために自立活動の視点を取り入れた学習を行っています。令和5年7月は性や命について、令和6年4月には自分も相手も大切にしたい表現方法を学ぶアサーショントレーニング、怒りをコントロールするためのアンガーマネジメントについて専門家から講話をしていただきました。また、令和6年11月と12月には、昼間主1年次や夜間主生徒を対象に、交際関係にある2人の間で振るわれる暴力のことを指すデートDV、落ち込んだ時に気持ちを回復させるレジリエンストレーニングについての講話もしていただきました。



○充実したキャリア教育○

生徒が希望する進路実現に向けて、充実したキャリア教育を行っています。例えば、令和6年度からは学校行事として昼間主2年次、夜間主3年次全員参加を原則とするインターンシップを実施しました。訪問先で体験した仕事はもちろんのこと、事前に行った電話でのやり取りや自宅から訪問先までの交通手段を調べる学習等を通して自己理解能力や課題対応能力を育み、将来自分にはどのような仕事に向いているのかを考えるきっかけになりました。また2年次からは、就職支援教員が生徒全員と面談を実施し、進路実現に向けて必要な助言と併せてスキルトレーニングを行っています。



萌世 通信制課程

○特別活動○

通信制に通う生徒の多くが抱える悩みがあります。それは、友だちがなかなかできないということです。子わかネットが実施したコミュニケーションワークはそのような悩みを抱える生徒たちに好評でした。令和5年度よりも令和6年度のほうが参加人数は増えていることはその裏づけになると思います。

※特別活動（子わかネットの授業協力）へ参加人数

	令和5年度	令和6年度
郡山方部（日曜日実施）	37名	48名
郡山方部（月曜日実施）	実施せず	17名
福島方部	10名	13名
白河方部	15名	26名
会津方部	9名	8名
いわき方部	19名	23名
原町方部	8名	13名



○萌世カフェ○

萌世カフェは令和5年度、郡山方部だけの活動でした。令和6年度は各方部で活動しました。それに関わらず各方部で多くの生徒が活動に参加したのは、昨年度の特別活動で子わかネットの皆さんとコミュニケーションがとれていたことが大きな要因になっているのではないかと思います。多くの生徒が最初から安心して参加できたようです。

※萌世カフェへの参加人数（延べ人数）

	令和5年度（3回実施）	令和6年度（2回実施）
郡山方部	延べ63名の参加	延べ52名の参加

	令和6年度
福島方部	延べ13名の参加
白河方部	延べ9名の参加
会津方部	延べ4名の参加
いわき方部	延べ46名の参加
原町方部	延べ15名の参加



〈まとめに代えて〉 個別支援教育コーディネーターよりひと言

定時制 昼間主 二平真実 教諭

初めは手探りであった個別支援教育も、少しずつ形ができてきました。今後も寄り添ったきめ細かな支援を切れ目なく行い、生徒にとって学校が安心して学ぶことができる居場所になるように尽力していきます。

定時制 夜間主 今井康貴 教諭

4月に行ったエンカレッジプログラム（レクリエーション）を夜間主は全学年合同で行いました。そこで年次（学年）を超えての交流が生まれ、縦のつながりを意識できたことは、生徒たちにとって非常に良かったです。次年度についても計画を立てていきます。

通信制 上田正孝 教諭

特別活動も萌世カフェもそれぞれに有意義な活動でしたが、もう少し工夫を凝らすことによってさらに良いものにできるのではないかと考えています。例えば、特別活動の後に萌世カフェのような憩いの場を設け、スクーリングが終わった後も親睦を深める場所を提供することなどは通信制の生徒にとっては有意義な空間になると考えています。